

ボランティア活動報告書

グループ（フレキシブル）

| | |
|--------|--|
| 活動日時 | 2025年8月28日（木） 13:30~15:30 |
| 活動場所 | 株式会社 エーデルワイス 本社工場/ミュージアム |
| 出席メンバー | 島谷、船山、中江、山口 |
| 参加人数 | (施設の場合は、利用者数や職員の方も含む) 約 1 名 (エーデルワイス広報室 杉本課長代理 様) |
| 活動内容 | <p>尼崎市に本社拠点を置き、日本の「西洋菓子文化」を牽引してきた株式会社エーデルワイスを訪問した。その歴史、理念、地域への想いを伺う事で、阪神間の西洋菓子文化の理解を深める取材を行った。そして、インタビューを通じ、その価値と魅力、苦勞の歴史などをお聞きし、阪神間地元企業への思いを新たにすることが出来た。</p> <p>訪問に当たっては、以下の4つの主要な問掛けをエーデルワイスに事前にお願ひし、当日のインタビュー取材に臨んだ。</p> <ol style="list-style-type: none">①創業から現在に至る歩み（特筆すべき出来事など）②製品作りにおける哲学やこだわり③創業の地である尼崎市に対する思いや、地域との関りについて④未来を見据えたエーデルワイスの事業展開、ビジョン。 <p>また我々の学びを深めるため、本社工場と、設置されている「エーデルワイスミュージアム」を見学させて頂いた。西洋の菓子造りの歴史や、近世の道具類と共に、信じられない程精緻に作られたケーキによる模型作品などを見学。改めて職人技の凄さへの理解が深まった。</p> |
| 感想 | <p>事前質問に対する具体的な回答を頂き、実り多かった。特に以下の点が印象的だった。</p> <ol style="list-style-type: none">①創業時の経営危機：<ul style="list-style-type: none">・1966年（昭和41年）尼崎市の立花商店街で創業。しかし当時洋菓子はポピュラーではなく、また「洋菓子は神戸」の時代。エーデルワイスは売れず、事業をやめることも考えた。カネが無く、ショーケースは近所の魚屋さんからもらった。最後の手段で、近所に無料で配って味を知ってもらってから売れ出した。「あきらめない」先代社長の信念。②全国展開とアンテナールブランド化：<ul style="list-style-type: none">・1971年～フランチャイズ制でエーデルワイス全国展開（現在は直営販売化）・1978年、神戸北野坂にベルギーの高級菓子アンテナール開設。エーデルワイスブランドから転換・1981年、梅田阪神百貨店に店内厨房を持つ店舗開業（初の百貨店での製造販売）③製品づくりにおける職人技へのこだわり<ul style="list-style-type: none">・他社がケーキ造りの機械化を進める中でも、エーデルワイスは、未だに職人技、手造りに拘り続ける。・職人にはコンクール出場を奨励。練習場所と材料費は会社負担（賞を次々取って認められた先代社長の方針）・やる気ある職人には、社内審査の上で洋菓子の本場、ベルギーやスイスに一週間～20日派遣して人材育成。・このような人材育成取組の結果、職人が工場長などに育ち、技術を磨いて次々独立。現在スイーツで人気の、「ツマカリ」、「ショウタニ」、「ムッシュマキノ」などが独立して開店している。（のれん分けではなく、各自独立させていくのがスゴイ）。④地元尼崎への想い<ul style="list-style-type: none">・現在は東京の方が売上高が大きい。それでも地元尼崎市にはセンターオフィスを置いて離れないという現社長の方針。・尼崎への地域貢献への思いは強いが、食物アレルギーの子供がいたり、食品衛生法の問題などがあり、なかなか展開が難しい。かつては地元小学校でのケーキ造り教室など行っていたが、コロナ禍で中断。社長の指示で地元貢献テーマを探している。⑤これから<ul style="list-style-type: none">・エーデルワイス傘下の、アンテナール、ヴィタメールなどのブランドが認知されているので、由緒あるエーデルワイスブランドとの紐づけ戦略に転換を図りたい。・現在の客層は30～60歳代女性が中心。10～20歳代の客層並びに男性客（メンズスイーツ）を如何にキャッチするかが課題。⑥取材後の感想<ul style="list-style-type: none">・前回の白鶴酒造も同じだが、どの会社も苦難の歴史が今日に繋がっている。「一筋縄ではいかない」が出席メンバーの感想。創業者の比屋根氏が業界発展に尽力し、「洋菓子業界の父」と呼ばれるまでの苦勞話が聞けて良かった。・「アンテナール」のお土産を各家庭に買って帰った。押しなべて「おいしい」と評判が良かった。ただ各家庭で「アンテナール」は知っているが、「エーデルワイス」がアンテナールの親とは知らない。子供の出来が良かった？（笑）・「お菓子を通して、たくさんの人を幸せにしたい」がエーデルワイスの企業理念。地元尼崎で頑張れ「エーデルワイス」！ |